

使徒の働き3章16節 「イエスによる信仰」

1A 使徒たちに現れた力

1B 祈り 1

2B 御言葉 18

3B 自己の死 12

4B 信仰 16

2A 御名にある力

1B イエスの名

1C 主の約束 ヨハネ 14:16

2C 親密な信頼関係 ルカ 10:17

2B 信仰 6-7

1C 自分にはない力

2C イエス・キリストの御業

3C 取って立たせる行動

3A 信仰の賜物

1B 信仰の量り ローマ 12:3

2B 御霊の賜物 1コリント 12:9

3B 誇りの除去 ローマ 3:27

本文

使徒の働き 3 章を開いてください、私たちの聖書通読の学びは 2 章まで来ていました。そして今日の午後礼拝で 3 章全体を一節ずつ見たいと思います。今朝は、16 節に注目します。「このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおり完全なからだにしたのです。」信仰という言葉が、この一節の中で二度も出て来ていますね。今朝は信仰の賜物を働かせることについて見ていきたいと思います。

1A 使徒たちに現れた力

いつもお話していますが、章の区切りはずっと後世の人が付けたものであることを思い出すことが必要です。3 章の話は、2 章 43 節から続くものです。2 章 43 節に、「使徒たちによって多くの不思議としるしが行われていた。」とあります。主が、五旬節に祈っていた弟子たちに聖霊の賜物を下さり、彼らが聖霊に満たされて、それでイエス様の行われていた力強い働きが、使徒たちによって継続しました。そして、その初めの時の働きとして記されているのが、「生まれつきの足の不自由な人を立たせる」ことです。

3章は、ペテロとヨハネが祈りのために神殿に上ったところから始まります。その中で、施しを求める足なえの男がいました。ペテロとヨハネが彼を見つめると、彼はお金がもらえると思いました。けれどもペテロが、言います。「3:6 金銀には私はない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」そして右手を取って立たせると、たちまち、彼の足とくるぶしが強くなりました。そして、「3:8 歩いたり、飛び跳ねたりしながら、神を賛美しつつ二人と一緒に宮に入って行った。」とあります。そして、人々が物も言えないほど驚いて、ペテロとヨハネを見つめていたので、ペテロが、イエス・キリストを宣べ伝えたのです。この方の名によって、強められたのだ。この方の名を信じることによって完全なからだになり、またこの方が信仰をくださったのだ、ということです。

私たちの主は、使徒たちを用いられたように、すべてご自分を信じる者たちを、ご自分の器として用いたいと願われています。主が、ユダの王アサにこう言われました。「Ⅱ歴代 16:9【主】はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心のご自分と全く一つになっている人々に御力を現してくださいるのです。」主が隅々まで全地を見渡すほど、御力を表したいと願われているのです。そのためには、「その心のご自分と全く一つになっている」という条件がありますね。それから、使徒パウロはエペソにいる信者たちに、「エペ 2:10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。」と言いました。牧者チャック・スミスは、「神の用いられる人(The Man God Uses)」という本を書いています。そこでここ使徒の働き 3章を取り上げています。

1B 祈り 1

ペテロとヨハネが、このようにして、生まれつき足なえの男をどのようにして起き上がらせたのか、その背景の一つは、「祈っている」ということです。1節に、「ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。」とあります。ユダヤ人は、朝と昼、また夕の三度の祈りを献げていましたが、午後三時は三回目の祈りです。このようにして日々、定期的に祈りを献げに宮に上りました。祈りの人たちでありました。誕生したばかりの教会も、「2:42 彼らはいつも、…祈りをしていた。」とありましたね。祈りを熱心にささげていました。その中で、神の御力が現れるのです。

祈りに時間を献げ、心と力を尽くすと何が起こるかと言いますと、単に私たちの願いごとがかなえられるという領域ではなくなることが分かってきます。祈りは、自分の心が神と一つになってくる、神の臨在の中に自分を引き寄せる時となっていることが分かります。自分の意志を神にぶつけるというよりも、神の意志が自分に明らかにされて、そこに自分をお任せすることができるようになります。聖書では、サムエルの母ハンナの祈りがそうでしたね。不妊で苦しんでいて、彼女は言葉にならぬ、うめくような祈りをささげていましたが、その中で、男の子をくださいますなら、その子をあなたに献げます、という祈りを献げました。そう、神に献げられた人を、霊的な暗黒時代に陥っていたイスラエルに必要でした。

このように祈りによって、聖霊に導かれ、御心にかなった願いをするようになります。ユダが手紙の中で励まします、「20 しかし、愛する者たち。あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい。聖霊によって祈りなさい。」聖霊によって祈ります。

2B 御言葉 18

次に、ペテロは御言葉を良く知っていました。この奇跡の後に、彼は、この男に起こった癒しがいかにすぐれているかを延々と話しませんでした。そうではなく、彼らがイエスを十字架につけたこと、しかし神がこの方をよみがえらせたことを宣べ伝えました。18 節に「しかし神は、すべての預言者たちの口を通してあらかじめ告げておられたこと、すなわち、キリストの受難をこのように実現されました。」預言者が語られたことをペテロは持ち出しています。イエス様が、復活された後に聖書を弟子たちに解き明かされました。同じようにしてペテロも他の使徒たちも、律法や預言者たちの言っていたことを取り出して、論じていっています。そのことによって、神のご計画の全体を知り、空に拳を打つような祈りではなく、御心にかなう祈りを献げることができます。

世界の超大国の王たちを、神への信仰に導くのに用いられたのはダニエルですが、彼は祈りの人であり、またみことばの人でした。9 章には、エレミヤの預言によって七十年の捕囚の期間を知り、それで悔い改めの祈りをささげた様子が書かれています。その祈りの中身も、モーセの律法を良く心得ており、いかに先祖がそれに背いてきたかを悔いています。御言葉に精通していることが必要であり、聖霊が真理を知るのを助け、またみことばを思い起こすことを助けてくださいます。

3B 自己の死 12

ですから、祈りとみことばが必要です。そして、ペテロやヨハネが用いられたのは、「自分に死んでいた」ということです。12 節で、「どうして、私たちが自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。」と言っています。人々がそのように二人を見つめていたからです。彼らはすぐにそれを否定して、アブラハム、イサク、ヤコブの神が、イエスに栄光を与えて、このイエスが男を立たせたのだとしたのです。

そのことを、私たちは福音書の中で多く見ましたね。ペテロが、自分は死んでも主のお供をする と豪語したのに、三度、知らないと言いました。そして、復活されたイエス様は彼に、「ヨハ 21:18..あなたは若いときには、自分で帯をして、自分の望むところを歩きました。しかし年をとると、あなたは両手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます。」と言われました。自分が何かできること、望んでいることに対して、もう死んでしまっています。「わたしを離れては、あなたがたは何もできません。」と言われたことを身に着けている人です。そのような人は、イエスのみに力があることを知っているのも、それで信頼しやすいのです。それで聖霊が働いてくださいます。

4B 信仰 16

そして、今日読んだところ、神に用いられるには「信仰の人」でなければいけない、ということです。神のみことばによって、私たちは神のご計画を知り、この方が願われていることを知ります。そして、祈りによって、御言葉の真理を言い表し、また同意していきます。そして、祈りとみことばによって整えられた者たちが、自分の前にある事柄に対して信仰を働かせるのです。そして、神の力が現れます。神は、すべてご自分の正しさを信仰によって啓示していかれます。「ヘブ 11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。」

2A 御名にある力

ペテロが、どのようにして信仰を働かせたのかを考えてみたいと思います。もう一度、その足なえの男に対する言葉を読んでみましょう。「3:6 金銀には私はない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」ペテロは、金銀はなくとも、自分には、イエス・キリストがおられる。この方の名によって立ち上がりなさいと言いました。

1B イエスの名

1C 主の約束 ヨハネ 14:16

イエス様は前もって、何度となくご自分の名によって父に願いなさいと命じておられました。「ヨハ 14:13-14 またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。」イエスの名によって求めれば、かなえてくださることを聞いていたのです。私たちも実際に、ヨハネの福音書の学びでこの約束を読みました。どれだけ、私たちがその約束を本気で捉えていたでしょうか？ イエス様は、ラザロをよみがえらせるときに、「11:42 あなたはいつでもわたしの願いを聞いてくださると、わたしは知っておりました」と言われて、父に願い、それを聞いてくださったと確信しておられました。それで、「ラザロよ、出て来なさい。」と叫ばれましたね。ペテロは、そうしたイエス様の姿をずっと見ていて、それでイエスご自身の名で願えば、何でもしてくださると信じていたのです。

「名」とは、どういうことなのでしょう？ これは、単純に、「イエス・キリストによって命じます」と言い換えると分かり易いでしょう。自分が立たせるのではない。自分には何もない、金銀もない。けれども、よみがえられた方、イエスであれば、貴方を立たせることができるのですよ、ということです。私たちが不信仰に陥ってしまうのは、自分とその状況を比べてしまうことです。自分には、その人を立たせることなどできないと思ってしまうのです。しかし、立たせるのはイエスご自身なのです。イエスが、みこころとしておられるなら、この人を立たせることができますか？と問われたらどうでしょうか？ できますね。自分と状況を比べるのではなく、イエス様とその状況を比べるのです。「イエスであれば、この人を救うことができになる。」という信仰を働かせます。

そして、このお方なのだ、このお方こそが救うのだという時に、「名」が使われます。モーセが、燃えている柴の中で現れた主に、イスラエルの子らが、「その名は何か」と私に聞くでしょう、と尋ねています(出エジプト 3:13)。いろいろな神々がいる中で、名前を聞くことは、その名前にその神の本質があるとみなしていたからです。主ご自身は、「わたしはある」という者であると言われましたが、ヤハウェなる方、必要になる方と言われました。そしてイエスは、「ヤハウェは救い」であり、私たちの救いとなった方という意味です。

2C 親密な信頼関係 ルカ 10:17

ペテロが、「ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と言った時に、何か魔術か呪文であるかのように、その名を使えばたちまち立ち上がることができるということではありません。エペソで、「19:13 ユダヤ人の巡回祈禱師たちが、悪霊につかれている人たちに向かって、試しにイエスの名を唱え、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえに命じる。」と試してみた。」とあります。けれども、「19:15 悪霊が彼らに答えた。『イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。しかし、おまえたちは何者だ。』』として、彼らに飛びかかったのです。名前を使っているからいいのではありません。

そうではなく、その名というのは、本当にイエスを知っている、この方を親しく知っていて、信頼しているということです。72人の弟子たちが、「ルカ 10:17 あなたの御名を用いると、悪霊どもでさえ私たちに服従します。」と言って帰ってきましたが、イエス様は、「10:20 あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」と注意したものの、聖霊によって喜びにあふれて言われました。「10:21 あなたはこれらのことを、知恵のある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。」幼子のようにイエス様に信頼していたのです。

2B 信仰 6-7

もう一度、本文に戻りますと、「このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに」とペテロは言っています。

1C 自分にはない力

ここでペテロが強調しているのは、再び、「3:12 自分の力や敬虔さによって彼を歩かせた」のではないことです。信仰と信心深さを取り間違ふことがしばしばあります。信じるという力ではないんですね。それでイエス様はそのことをはっきりさせるために、からし種の喩えを語られました。「マタ 17:20 イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えば移ります。あなたがたにできないことは何もありません。」

2C イエス・キリストの御業

そしてペテロは、イエス様がなされていることが手本でありました。主の名によるのですから、主がなされたことを、そのまま自分もするのだと示されていたのでしょう。主は、数々の病人を、足のきかない人々を立ち上がらせました。ベテスダの池で、38年間病気にかかっている人を癒され、立ち上がらせました。中風の人で床を天井から降ろされてきた人を癒されました。何度も何度も、主は弟子たちの前で御業を行われました。

その時にイエス様はいつも、命じておられましたね。「起きて床を取り上げ、歩きなさい。(ヨハ5:9)」主は、父のみこころに沿って、言葉で命じられました。それでペテロは同じようにして、イエス様の御名によって、「立ち上がり、歩きなさい。」と語りました。

3C 取って立たせる行動

それだけではありません、ペテロは、「3:7 彼の右手を取って立たせた。」とあります。ここで、実際に立たなかったら、どうするか？ただ、語っているだけなら、ごまかせるかもしれません。けれども、立たせているのですから、立たなかったら嘘つきになってしまいます。けれども、行動に移しました。信仰には行動が伴います。「ヤコ 2:22 あなたが見ているとおり、信仰がその行いとともに働き、信仰は行いによって完成されました。」

3A 信仰の賜物

けれどもここで、ペテロは、次のようにも言っています。「イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおり完全なからだにしたのです。」イエスの名に対する信仰のみならず、イエスによって与えられる信仰です。主ご自身が、一步を踏み出すことができる信仰を与えてくださるということです。

1B 信仰の量り ローマ12:3

パウロは、信仰の量りが与えられていることを教えています。「ロマ 12:3 私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います。思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい。」私たちが、それぞれに信仰の量りが与えられて、それぞれが異なる信仰の働きをします。ですから、ペテロが足なえの人を見た時に、立ち上がらせる信仰が与えられて、それで命じたということです。

2B 御霊の賜物 1コリント12:9

このように、信仰の賜物が与えられることを祈っていきたいです。パウロは、御霊の賜物として信仰を列挙しています。「1コリ 12:9 ある人には同じ御霊によって信仰、ある人には同一の御霊によって癒やしの賜物、」信仰の賜物が与えられた時は、迷わずに、大胆に用いてください。

3B 誇りの除去 ローマ3:27

そして、信仰によって行ったので、それは自分が行ったという意識がありません。自分がやったのだとする誇りが取り除かれます。「ロマ 3:27 それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それは取り除かれました。どのような種類の律法によってでしょうか。行いの律法でしょうか。いいえ、信仰の律法によってです。」自分がどんなにへりくだろうとしても、行いによってであれば、必ず高慢になってしまいます。行いによって成功したら、その後に待っているものは高ぶりです。「自分ができた」とする自慢です。しかし、自分はキリストと共に十字架につけられています。主にそうしなさいと言われたから、だからただ行っただけですという、信仰の従順によって一歩、踏み出す時に、神はご自分の働きを行われます。その時には、全く自分のことだとも思われず、神が行ったと自分自身も喜び、神をほめたたえることができるのです。

ぜひ、信仰の賜物が与えられるように祈ってください。祈り深くし、御言葉に親しみ、その中で、主が聖霊によって、これこれをしなさいと命じる時があると思います。それを躊躇せずに行うのです。主が、その後を行ってくださいます。